

雨皮

いひけんをもて、この棧の名とせし事、芝るきなりと云へり、

〔西宮記臨時八〕車

雨皮 公卿以上車張之

〔物具裝束抄〕一雨皮事

面練薄青染之差油裏白生絹、近代面裏練之薄青染不差油、爲公平云々、公卿以上僧綱用之、

〔海人藻芥〕雨具事

雨皮生絹ヲ淺黄ニ染用之、輿車同シ、但可有大小也、張筵車ニ用之者也、

〔蛙抄車輿〕雨皮間事

三位以上用之、雖何車通用之、表裏平絹幅表淺木ニ染ム、緯ノ妻ニ細緒ヲ縫合テ、以其緒結付雨皮

也、先下ニ張張筵ヲ、其上ニ張雨皮也、連軒俄降雨之時、上臚不覆之前ニ不覆之、進而覆ハ無禮也、殿上人已下不用之、只用張筵、

晴天路次之間、釜殿仕丁、著退紅持之、參議不具退紅仕丁歟、依制符之故云々、此時白張笠持相加笠持之云々、當家ハ座座恐誤日猶具退紅仕丁、以白布

十反緘之時、或以雨皮爲上、或以張筵爲上、德大寺如此也、當家說、以雨皮爲上テ、以張筵籠中也、

院中儀、持ニ插テ持之、大臣以下只夾腋乎、他家不知之、當家如此見圖、在右爲尾外、

〔輿車圖考九〕雨皮付

輦に金物ありて、雨皮のつまの緒をゆひとむるなり、これに栗形といふあり、

〔九條家車圖〕唐御車

御雨皮張筵如常

〔輿車圖考四〕唐車

張筵とは、むしろをはりて雨を除るなり、鳳輦のはり筵くはしく、玄らず、乗車のは詳記を見ず